

イラストでみる

西南戦争 “高瀬の戦い”

【お問い合わせ】

玉名市教育委員会

文化課文化財係

TEL:0968-75-1136
bunka@city.tamana.lg.jp



錦絵『西郷小平討死図』市博物館図録より

～西南戦争の関ヶ原～

明治10（1877）年2月下旬、政府軍（官軍）と薩摩軍は、この高瀬で初めて主力同士で戦い、事実上の天下分け目の戦いとなりました。

高瀬まで北上してきた薩摩軍は、ここで敗れたことによって、次の激戦地（田原坂・吉次峠）へと後退、薩摩軍の運命を変える大きな転換点となったのです。

■玉名に残る西南戦争の痕跡

～薩摩軍の運命を変えた3日間の戦いとは～

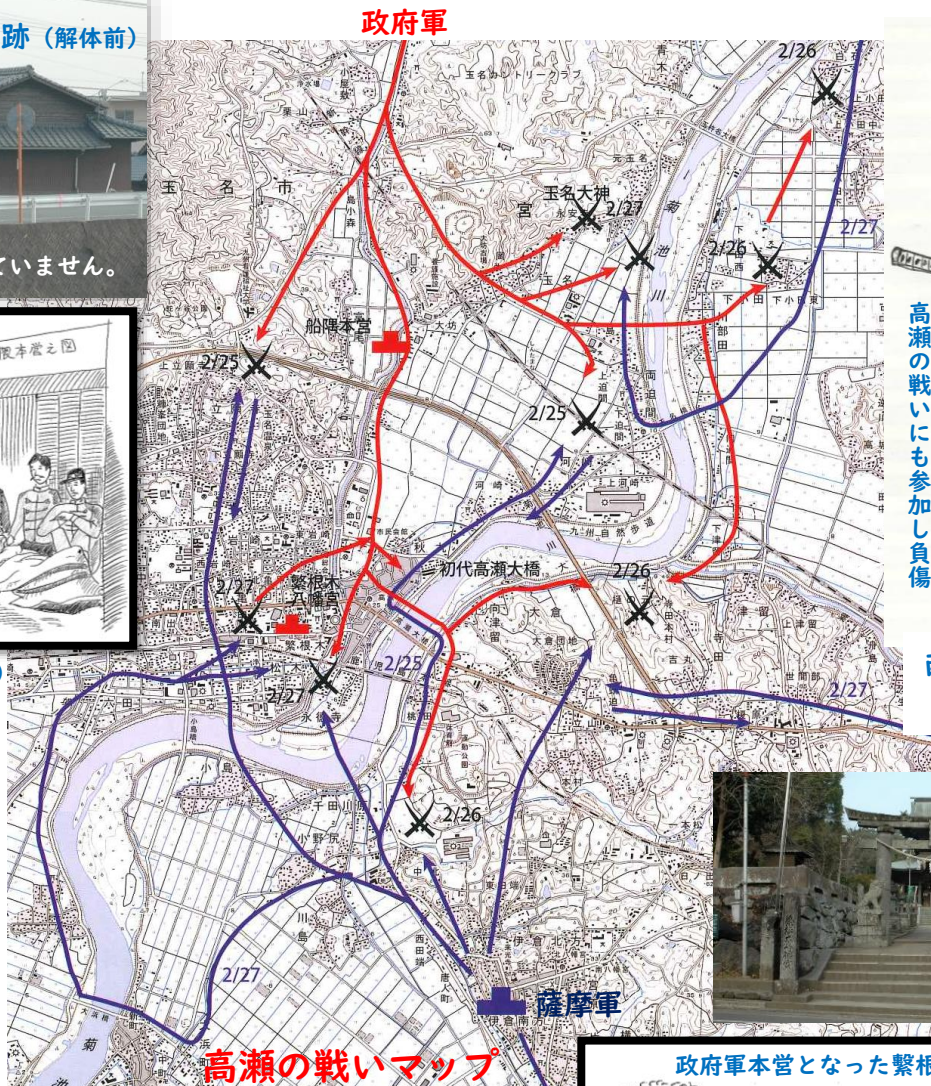


船隈官軍本営跡（解体前）

※現在建物は残っていません。



「船隈本営の図」（従征日記より）



高瀬の戦いマップ



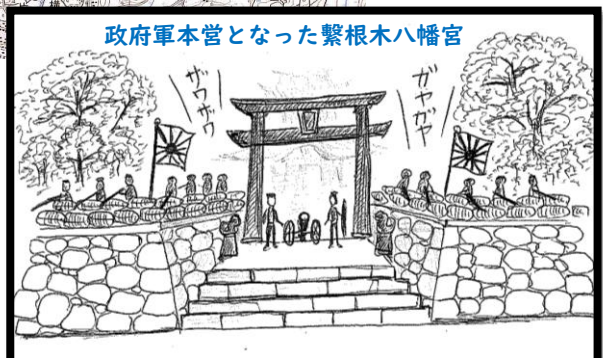
高瀬の戦いにも参加し負傷

西郷菊次郎（17歳）

西郷隆盛・奄美大島の子
（のち京都市長）



政府軍本営となった繫根木八幡宮



なぜ、この高瀬が戦場となったのでしょうか。政府軍は熊本城救出のため、南関から高瀬（三池往還）を通りました。しかし、乃木隊が植木から高瀬まで退却し、主力部隊の到着まで食料も確保できるこの高瀬で待つことが大きく要因しました。そして、菊池川を挟み、起伏が少ない高瀬と玉名平野が激戦地となったのです。



政府軍の兵士
（近衛兵）

■第1次高瀬会戦(2月25日)

政府軍の津森大尉ら 300 人は岩崎原方面、山根大尉らの先鋒が夜明けの高瀬町へ入ります。薩摩軍は小天 300 人、伊倉 400 人、木葉 500 人、山鹿 1000 人が午後 4 時、一斉に高瀬へ向けて進行し、高瀬大橋を渡って斬り込んだり、千田川原などから渡河します。政府軍は東京鎮台などの連隊が到着し、玉名村・高津原などで砲戦、繁根木や岩崎で銃撃戦が始まりました。決着つかず、午後 8 時まで戦いが行われました。



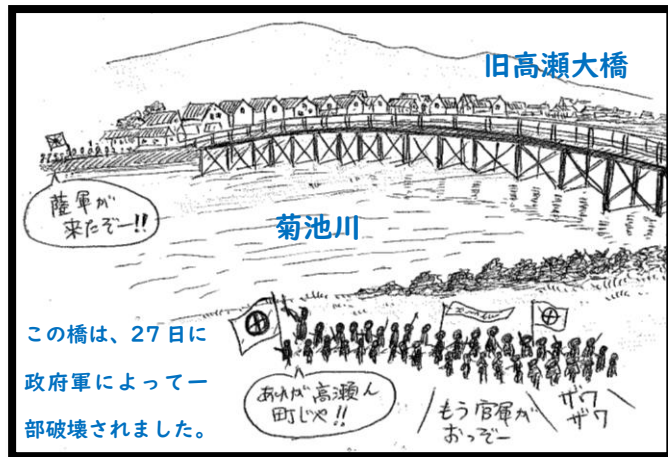
高津原の砲台跡



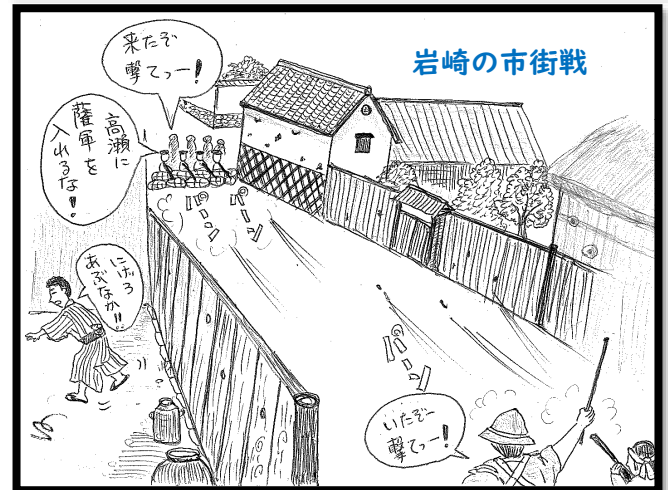
元玉名採集の砲弾片



民家に残る弾痕

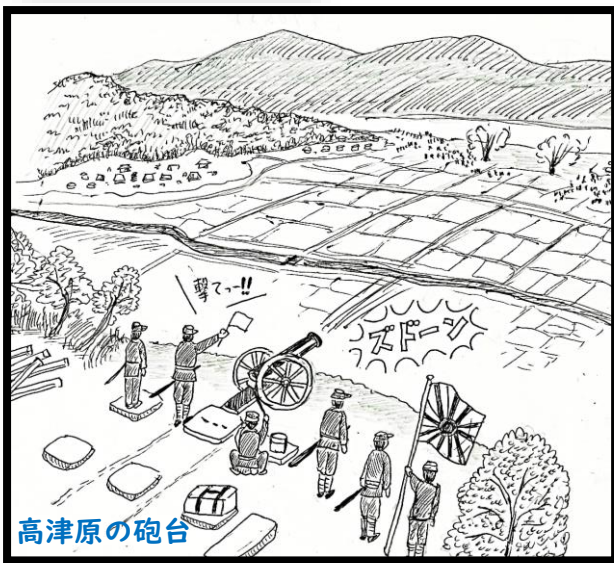


この橋は、27日に政府軍によって一部破壊されました。



岩崎の市街戦

▲岩崎や繁根木は市街戦となりました。多くの民家がある中で銃撃戦が行われ、弾痕も残されています。



高津原の砲台

▲高津原(立願寺温泉街にある高台)には政府軍の砲台が置かれました。神社を解体し台座として利用された石が残されています。

■第2次高瀬会戦(2月26日)

伊倉から進出してきた熊本隊(約 600 人)は寺田で待ち伏せしていた政府軍に遭遇。隊長・池邊吉十郎は、腹部に銃創を追いながらも、吉次峠へと向かいます。また、加治木隊十数名は集団自決するという悲劇が起こりました。



熊本隊隊長

池邊吉十郎

(39 歳)

▲熊本隊隊長、池邊吉十郎は、腹部に銃創を追いながら戦い続けますが、戦後に捕らえられ処刑されてしまいます。明治5年に一家で横島村に移住し、私塾を開き、佐々友房などと行動を共にして「肥後の西郷」と呼ばれる存在だとも慕われる存在だったといわれています。



池邊吉十郎の墓
(玉名市横島)



▲加治木隊の墓(玉名市梅林)

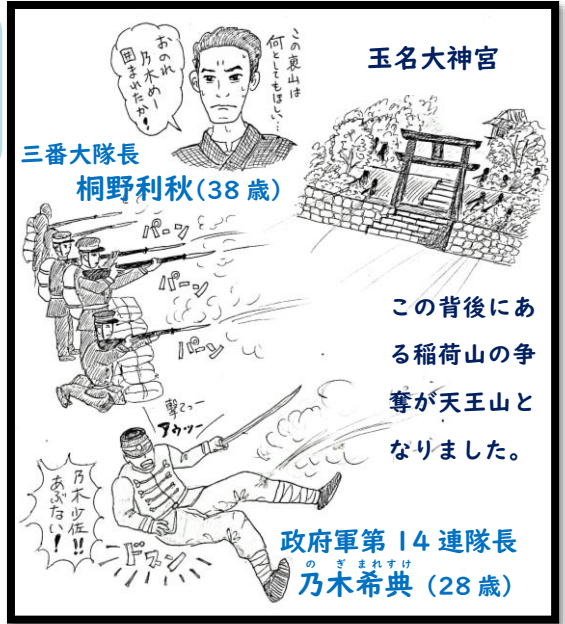


▲政府軍は南関へ進行中の加治木隊を見つけて攻撃します。この時に負傷して取り残された隊員 19 名は、白虎隊のような集団自決をするという悲劇が起こりました。その後、遺骨は遺族によって国元へ持ち帰られています。



◀村田隊(約1000人)は、大浜へ迂回して菊池川を渡河し、岩崎原を攻撃します。

▶桐野隊(約600人)は、山鹿から玉名大神宮に入ったところを、政府軍に囲まれ集中攻撃されます。玉名大神宮を奪還しようとした乃木少佐は左足に銃創を負い、南関の病院へ運ばれました。



▲政府軍は高瀬の町に放火。この時、高瀬御蔵などの重要施設も焼失。民家など約200戸も焼失してしまいました。



▲小兵衛は、橋本家の雨戸に乗せられ、兄・隆盛のもとへ向かう途中で絶命。橋本家には妻・松子からの感謝状が残されています。



▲西郷小兵衛は、永徳寺で先陣をきって勇猛果敢に戦うも、左胸に銃弾を受け倒れます。

さらに弾薬の欠乏による篠原隊(約1200人)の撤退によって戦線が崩壊、敗退を余儀なくされました。

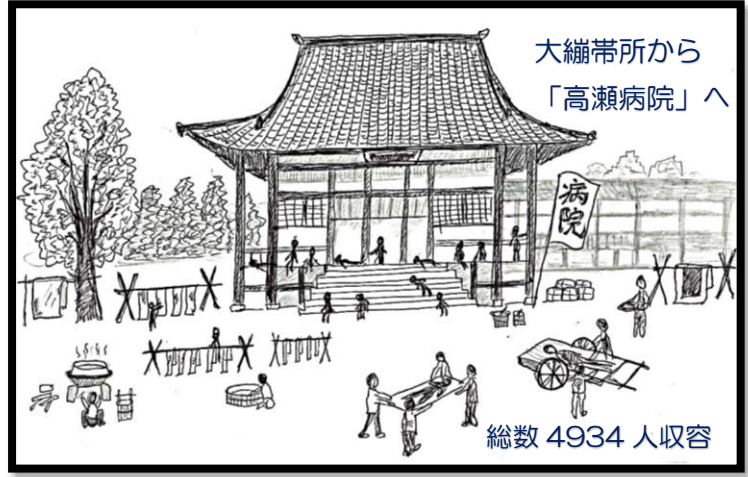
■戦場は田原坂へ、その後の高瀬は…

～病院、大本營、そして官軍墓地の造営～



船隈の官軍本營で報告
(五姓田芳柳・画より)

◀谷村計介は密使として熊本城を抜け出し、何度か捕まりながらも脱出。
3月2日ようやく高瀬の船隈本營にたどり着き、熊本城内の実情を報告します。彼はその後、戦場へと戻り田原坂で戦死しました。



大繙帯所から
「高瀬病院」へ

総数 4934 人収容

▲焼け残った高瀬の寺院（延久寺など）は、3月3日に大繙帯所となり、3月12日には「高瀬病院」となりました。



征討総督本營跡（旧臼杵邸）

有栖川宮熾仁親王（42歳）



征討総督本營跡



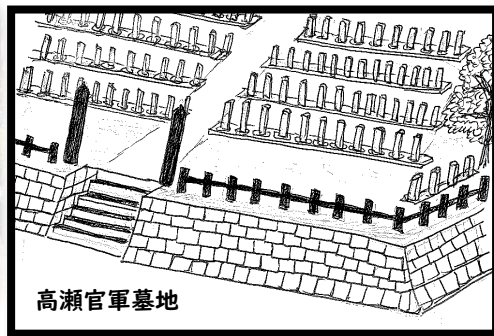
日本赤十字社発祥の地碑
(現：玉名女子高校)

◀3月25日～4月19日まで、旧高瀬藩邸跡の建物が仮県庁として使用されました。ここで、「博愛社」構想が話し合いされたと伝わっています。

▲3月23日からの25日間は、繁根木村の臼杵邸が大本營（征討総督本營）となり、有栖川宮親王が滞在し「鳳樹楼」と名づけました。



高瀬官軍墓地の合祀塔
(昭和41年改葬)



高瀬官軍墓地

395人が埋葬された高瀬官軍墓地

▲高瀬官軍墓地に葬られた人の多くは田原坂や吉次峠の戦いによる犠牲者でした。病院があった高瀬へ運ばれ、その後亡くなった兵士が埋葬されています。高瀬の戦いによる戦死者は、南関の官軍墓地に埋葬されました。

いくさ入 ひさむ心を 慰めて
つつみも笛も おもしろし

有栖川宮熾仁



※この時の太鼓のリズムは、現在も高瀬消防団に伝えられています。

▲4月1日には、繁根木八幡宮にて陸軍の軍楽隊による慰安の演奏が行われました。



光蓮寺に移設された官軍墓地の墓石



墓壇内から出土した銃弾



検出した墓壇（人骨も残存）